

# The Standard



Fall/Winter 2015–2016

The Kaari Collection by  
Ronan & Erwan Bouroullec  
and three other highlights from Artek

**artek**

# カアリ・シリーズ

## ロナン&エルワン・ブルレック

ロナン&エルワン・ブルレックは、シャープでシンプルな構造を組み合わせ、エレガントで実用的な作品を生み出しました。

「カアリ」シリーズ(カアリはフィンランド語で「アーチ」の意)をデザインするにあたり、ロナン&エルワン・ブルレックは、アルテックのこれまでの歴史や作品を新しい観点から見つめ直しました。2人がたどり着いたのは、テーブルや棚、デスクを支える、シンプルで湾曲したスチール製のシステム部品でした。これは、1933年、アルヴァ・アアルトが独自に開発したL-レグと共通の考え方であり、非常に実用的で様々な家具のパーツとして応用でき、驚くほど薄く、軽やかです。

「カアリ」シリーズを開発中、このアーチ状の部品は非常にフレキシブルに使えることが立証されました。この部品の原理はいたってシンプル、天板と棚板の重みをエレガントで薄い湾曲したスチールによって斜め方向

に支えています。木とスチール、これまでアルテックで長年使われている2種類の素材がこのような形で組み合わせられたことは今回が初めてです。表面材に選ばれた、光を吸収する素材であるリノリウム、光を反射する光沢ハイプレッシャーラミネート(HPL)の2種は、長く使う事で魅力的で味わい深い色になっていきます。ブルレック兄弟によるカアリは、斬新なデザインで、独自の美を見出しながらも、アルテックの伝統を重んじ、生涯を通して使い続ける事ができる作品です。



無垢の木材が湾曲したスチール製の部品に支えられたブルレック兄弟のカアリデスクは、軽やかで、独特の直線的なシルエットを形づくります。

# ライバルチェア コンスタンチン・グルチッチ

コンスタンチン・グルチッチは、アルテックとの初コラボレーション作品を「ライバル」と名付けました。これは、競争という意味ではなく、自信を表します。

コンスタンチン・グルチッチが手がけたライバルは、食事時からパソコンを使う時間、夜更けに友人とテーブルを囲む時間など、生活の様々なシーンにおいて活躍するタスクチェアです。また、このチェアは、公共スペース、プライベートな住まい、オフィスなどどんな場所でも気軽に使うことができ、1脚で使う場合でも、セットで使用する場合でも違和感なくその場に馴染みます。無垢のバーチ材の使用や、シンプルで明解な構造など、アルテックらしい特徴がある一方で、新たな領域にも挑戦しています。

アルテック初の回転式チェアであるライバルは座面下のポリプロピレン製のシェルにア

ルミ製の回転機能が隠されています。無垢のバーチ材から脚を象ることで、プラスチック鑄物のような滑らかな形を作ることができます。ハイとローの2種類のバックレストとアームレストに使われたバーチ材は、板を重ね合わせて成形するラメラ加工で出来ています。これはアルテックの歴代の技法に忠実であり、フィンランドのA-ファクトリーで生産されています。このライバルは、シンプルかつユニークなデザインで、従来のオフィスチェアとは一線を画す大胆さを合わせて持っています。グルチッチはアルテックの創業者の精神に敬意を表しながらも、その見た目と機能面の両方において新たな可能性に挑んだ作品です。





コンスタンチン・ゲルチッチのライバルは、アルテックらしい木製のシンプルな構造と革新的な回転機能の両方を持つチェアです。

# 個性と不完全さが生み出す クオリティ

原材料となる樹木と同じように、自然の不完全性や個性がアルテック製品の美しさにつながっています。

フィンランドにおいて、森林はアイデンティティとも言える大切な要素です。森林は国内土全体の3分の2近くを占め、フィンランドの5世帯中1世帯がその一部を所有しています。フィンランドの学校では、森林についてのカリキュラムが授業に組み込まれています。1世紀以上前から地元の人々による努力により、森林は消耗されることなく、その規模は成長し続けています。アルテックは、原材料を効果的に使用しており、木材の切れ端を燃やして工場の暖房システムをまかなっています。フィンランド樹木の特有の美しさは、混合林の特徴といえるゆっくりとした成長ペースからきています。木の成長に時間をかけることで、幹の密度が非常に濃くなるのです。アルテックが使用する木材は、およそ80年経ったもの、つまり2015年に作られた製品

の原材料は、会社自体が歩んできたのと同様同じ年月を重ねていることになります。

アルヴァ・アアルトがキャリアをスタートした際、彼はフィンランドの膨大な木材資源に目を向けました。木材は、屈曲可能な鋼鉄のように順応性の高いものになり得る——、そのことを証明しようと決意した彼は、熟練の職人たちと力を合わせ、アイコニックなL-レッグをはじめとしたイノベーションに取り組みました。80年が経過した今も、アルテックの製法は原材料の特性と深く結びついています。たとえば、キャンチレバーのアームチェアの両サイドのアームは均等な密度になるよう必ず同じ幹から切り出されています。何よりも重要なのは、木材がもつ自然ならではの不揃いな部分を、アルテックは欠陥ではなく美点だと捉えていることです。





フィンランドの森林のバーチ材により作られた、アルヴァ・アアルトのチェアやスツール。そのどれもが原材料の樹木と同じように独自性を持っています。



1936年にアルヴァ・アアルトがデザインした木製の100パーテーションは、ナチュラルラッカー仕上を施したパイン材の自然な質感を持つ、オーガニックな曲線が美しい作品です。





# アルテックの80周年

アルテックは80周年を迎えるにあたり、象徴的な901ティートロリーを再編集します。

アルテックという社名は、アートとテクノロジーの融合を意味します。1935年にこの会社を立ち上げるにあたり、建築家でデザイナーのアルヴァ&アイノ・アアルト、美術愛好家のマイレ・グリクセン、美術史家で文筆家のニルス＝グスタフ・ハールは、アルテックの家具や照明を国や海外に広めるだけでなく、モダニズムの考え方をフィンランドに持ち込むことも目指しました。アルテックは、モダニストの理想を具現化した国際的な家具の展示会を企画する一方で、ヘルシンキにある同社のギャラリーでは、カルダーやマティス、ピカソ、レジェといった著名な芸術家の前衛的な展覧会を開催しました。フィンランドのミッドセンチュリーを代表するデザイナーで、ドムスチュアをデザインしたイルマリ・タピオヴァーラをはじめ、ウルヨ・クッカプロやエーロ・アールニオ、近年でも、坂茂やエンツォ・マリ、トビアス・レーベルガー、コンスタンチン・グルチッチ、ヘラ・ヨンゲリウス、ロ

ナン&エルワン・ブルレックといったアーティストやデザイナーとのコラボレーションを通じ、文化的交流を促すというアルテックのミッションは継続しています。

アルテックは、80周年を迎えるにあたり、1936年のミラノ・トリエンナーレで発表された、アルヴァ・アアルトの名作、901ティートロリーに再解釈を加えるべく、ヘラ・ヨンゲリウスを迎えました。イギリスと日本のティールカルチャーに着想を得たこのデザインには、アアルトの旅の経験や国際的な交友関係から得たインスピレーションが反映されています。ヨンゲリウスが手がけたバージョンでは、トロリーの上と下の天板に別々の繊細なカラーを施すことにより、見え方にアクセントをつけました。これは、アアルトによるシンプルながらも遊び心のあるデザインの魅力を更に引き立たせています。





アルヴァ・アアルトが作った、901ティートロリーの再編集。ヘラ・ヨンゲリウスによるデザインでは、黒のラッカー塗装仕上げのパーティ材のフレームに、天板にはリノリウムのビートとチャコールのカラーを施しています。





### 1. カアリ テーブル

REB 001 (200 x 85 cm)

REB 002 (240 x 90 cm)

デザイン: ロナン&エルワン・ブルレック、2015年

天板: ブラック、ライトグレー リノリウム、ホワイト

(光沢)、ブラック(光沢)

ベース: 無垢のナチュラル オーク、ブラック スティ  
ン オーク



### 2. カアリ テーブル

REB 003 (Ø80 cm)

REB 004 (Ø110 cm)

デザイン: ロナン&エルワン・ブルレック、2015年

天板: ブラック、ライトグレー リノリウム、ホワイト

(光沢)、ブラック(光沢)

ベース: 無垢のナチュラル オーク、ブラック スティ  
ン オーク



### 3. カアリ コンソール

REB 006 (100 x 45 cm)

デザイン: ロナン&エルワン・ブルレック、2015年

天板: ブラック、ライトグレー、レッド、ブルー リノ

リウム

フレーム: ナチュラル オーク、ブラック スティ  
ン オーク



### 4. カアリ シェルフ

REB 007 (Ø35 cm)

デザイン: ロナン&エルワン・ブルレック、2015年

シェルフ: ブラック、ライトグレー、レッド、ブルー リ

ノリウム

フレーム: 無垢のナチュラル オーク、ブラック スティ  
ン オーク



### 5. カアリ デスク付きシェルフ

REB010 (200 x 142 cm)

デザイン: ロナン&エルワン・ブルレック、2015年

シェルフ: ブラック メラミン(光沢)

天板: ブラック リノリウム

フレーム: 無垢のナチュラル オーク



### 6. ロナン&エルワン・ブルレック

ロナン・ブルレック(1976年生まれ)とエルワン・ブ  
ルレック(1971年生まれ)は二人の異なるパーソナ  
リティーで非常に挑戦的で実りの多いコラボレー  
ションを生み出しながら、20年間にわたって共

に活動を続けています。彼らの仕事は、空間や家  
具のデザインから建築プロジェクトまで多岐にわ  
たります。ブルレック兄弟は、自分たちの作品を  
発展させるうえで不可欠となる実験的な活動にも  
注力し、2014年12月にはデザイン界の中で名誉  
栄誉ある「Panerai London Design Medal」を受  
賞した他、多くの美術館で、ロナン&エルワン・ブ  
ルレックの展覧会を開催しています。(デザイン・ミ  
ュージアム・ロンドン、ロサンゼルス現代美術館、  
ヴァイトラデザインミュージアム、ポンピドゥー・セン  
ター・メッス、シカゴ現代美術館、パリの裝飾芸術  
美術館など)



### 7. アルヴァ・アアルト

フィンランドを代表する建築家で、北欧モダンデザ  
インの思想を構築した一人。1935年に仲間3人  
と共にアルテックを設立。建築のみならず、家具、  
照明器具、ファブリック、建築金具やガラス器など  
数多くの生活デザインを手がけている。代表建築  
として、パイミオ・サナトリウム、ヘルシンキ工科大  
学、フィンランディアホールなど多数。



### 8. L-レッグ

ミラノ・トリエンナーレとロンドンのフォートナム・ア  
ンド・メイソンにおける「Wood Only」展で初披露  
されたアルヴァ・アアルトのL-レッグは、無垢材

の上部切り込みに板を挟み合わせたものに熱を加え90度に曲げるというものでした。この特許は1933年に取得されました。家具のパーツやシステムを標準化するというアアルトの哲学において、このL-レッグはすぐにスタンダード部品として他の家具にも使われるようになりました。この革命的な開発は、スツールやチェア、ベンチ、テーブル、など多くの家具に応用されました。このL-レッグの導入は、1935年のアルテック創業につながる重要な布石となり、L-レッグを用いて機能性を追求し、要素を極限までそぎ落としたSTOOL60は今でもスツールのスタンダードな形の一つとして、世界中の公共施設や一般家庭で目にすることができます。



### 9. スツール60

Stool 60(38×44cm)

デザイン:アルヴァ・アアルト

本体:バーチ材、3本脚、スタッキング可



### 10. コンスタンチン・グルッチ

コンスタンチン・グルッチ(1965年生まれ)の作品は常に、人間的な機能性とデザインや建築の歴史に対する入念な調査、テクノロジーや素材への情熱によって形作られています。その中には機能性と、厳格なデザインと知性、ユーモアが共存しています。1991年に自身の拠点「コンスタンチン・グルッチ・インダストリアルデザイン(KGID)」をミュンヘンに設立して以降、彼は数々のデザイン界を

牽引する企業と家具やプロダクト、照明器具を共同開発してきました。彼の手がけた製品の多くは国際的なデザイン・アワードを受賞しており、パーマネントコレクションとして世界的に有名なデザイン・ミュージアムに所蔵されているものもあります。彼の個展は、世界各国で開催されています。(ロッテルダムのボイマンス・ヴァン・ベニンゲン美術館や、ミュンヘンのハウス・デア・クンスト、シカゴ美術館、ヴィトラデザインミュージアム、ストックホルムの建築デザインセンター、Z33など)



### 11. ライバルチェア

KG001(ローバック)

KG002(ハイバック)

デザイン: コンスタンチン・グルッチ、2014年

本体: バーチ材

座面: ポリプロピレン シェル、3次元布張り、もしくは革張り、回転式



### 12. キャンチレバーのアームチェア

401アームチェア

デザイン: アルヴァ・アアルト、1933年

アームレスト: バーチ材積層合板曲げ加工

背座: 生地張り、クッション材: 波型スプリング、ポリウレタン フォーム、ポリエステル

1933年に発表された401アームチェアは、柔軟性のある、バーチ材ラメラ加工のキャンチレバータイプで、快適な座り心地を実現します。



### 13. フィンランドの気候と照明

インテリアを形作るうえで自然光を最大限利用するということは、アルヴァ・アアルトの建築の基礎でした。それは照明の光についても同様です。フィンランドの気候や薄暗い冬を考慮すると、照明の光は彼が手がけるインテリアだけでなく、アルテックの製品群にとっても常に不可欠な要素でした。光の性質や、光が及ぼす心理学的な影響だけでなく、照明器具の彫刻的な美しさを引き出そうとしたアアルトは、1920年半ばという時期に、既に自身の建築プロジェクトのために照明器具のデザインに着手していました。彼の照明器具は、どれも美しく、また機能的でもあり、スイッチを入れても入れなくてもデザインとして価値のあるものを目指して作られました。



### 14. A110ペンダント「手榴弾」

その独特な形状から「手榴弾」という愛称でも知られる照明器具A110は、アアルトが手がけたフィンランドの技術者組合の建物(1948-53)のためにデザインされました。同じモデルはセナツァアロ・タウンホール(1949-1952)の会議室にも使用されました。

デザイン: アルヴァ・アアルト、1952年  
ブラック、ホワイト



#### 15. A331ペンダント“ビーハイブ”

照明器具A331は、フィンランドのユヴァスキュラ大学のためにデザインされ、アアルトによる家庭や公共スペース用の照明器具として、最も有名な作品のひとつとなりました。「ビーハイブ（蜂の巣）」は、スイッチを入れると温かみのある柔らかい光を発生し、電気を切っているときでもデコラティブで彫刻のような美しいデザインの作品です。

デザイン: アルヴァ・アアルト、1953年  
ホワイトシェード / プラスメッキリング、クロームメッキリング、オールホワイト



#### 16. A330Sペンダント“ゴールデンベル”

「ゴールデンベル」と呼ばれるアアルト作の照明器具A330Sは、元々はヘルシンキのサヴォイ・レストランのためにデザインされました。真鍮から作られるゴールデンベルは、アアルト特有の無駄のないデザインで暖かみのある光が特徴です。

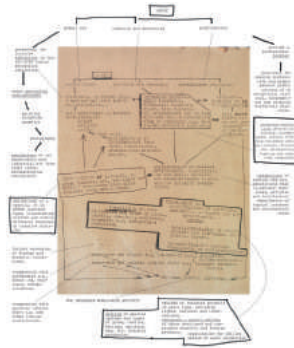
デザイン: アルヴァ・アアルト、1937年  
プラス、クローム、ブラック、ホワイト



#### 17. A333ペンダント“カブ”

そのオーガニックな形状から「カブ」としても知られているA333は、ヘルシンキにあるアアルトが手がけた国民年金機構の建物(1956)でたくさん使われました。ランプシェード上部のサークル部分からライトが反射することで、丸みのある形状がより引き立ちます。

デザイン: アルヴァ・アアルト、1950年代  
ホワイトシェード / プラスメッキリング



#### 18. モダニストの理想

フィンランド語とスウェーデン語で表記された創業当初のマニフェストにおいて、アルテックの創業者たちは家具の販売・流通の範囲をはるかに超えたミッションと目標を定めました。彼らは、芸術や合理的な家具の製造、そして大衆教育と結びつけることで、建築やデザインだけでなく、日常生活において、よりよい暮らしをもたらすというビジョンを思い描いていました。アルテックは、自社のことをモダニズムの旗手であり、教育機関でもあると捉えていました。このマニフェストは、インスピレーションの重要な源であり、イデオロギーの表明であるとともに、アルテックの精神を規定した重要な資料だといえます。



#### 19. ドムスチエア

デザイン: イルマリ・タピオヴァーラ、1946年  
本体: パーチ材、背座: パーチ材成形合板  
ナチュラル ラッカー、ブラック スティン、ハニー スティン、ホワイト ラッカー



#### 20. イルマリ・タピオヴァーラ

フィンランドのミッドセンチュリーを代表するデザイナーで、インテリア専門の建築家。卒業後ル・コルビュジェやミース・ファン・デル・ローエの事務所を経験を積む。快適性と機能性に優れ、ディテールにまでこだわった繊細な美しさをたたえながらも、公共の場や一般家庭で多く使われ、フィンランド人にとっては親しみあるデザインが特徴。



#### 21. ヘラ・ヨンゲリウス

デザイナーのヘラ・ヨンゲリウス（1963年生まれ）は、インダストリアルとクラフト、ハイテクとローテ



ク、伝統的な要素と現代的な要素の境界がないことが特徴的。

デザインアカデミー・アイントホーフェンを1993年に卒業した後、自身のデザイン会社「ヨンゲリウスラボ」を設立し、様々なブランド、企業のためのプロジェクトや独自プロジェクトを手がけています。彼女の作品は、様々なミュージアムやギャラリーで展示されています。(ニューヨークのクーパー・ヒューイット国立デザイン博物館、ニューヨーク近代美術館、デザイン・ミュージアム・ロンドン、ヴィトラデザインミュージアム、ロッテルダムのボイマン・ス・ヴァン・ペーニンゲン美術館、パリのギャラリークレオ、ニューヨークのモスギャラリーなど)



## 22. 901 ティートロリー

デザイン: アルヴァ・アアルト、1936年

ホワイト ラミネート

本体: パーチ材、ナチュラル ラッカー仕上

ブラック リノリウム

本体: パーチ材、ナチュラル ラッカー仕上

ヘラ・ヨンゲリウスモデル 2015

ライトバージョン:

本体: パーチ材、ナチュラル ラッカー仕上

天板上段: クリーム リノリウム

天板下段: ホワイト ラミネート

ホイール: クリーム ラッカー、ホワイト ラバーリング

ダークバージョン:

本体: パーチ材、ブラック ラッカー仕上

天板上段: ピート リノリウム

天板下段: チャコール リノリウム

ホイール: ピート ラッカー、ブラック ラバーリング

ヘルシンキ - 本社

Artek oy ab

Lönnrotinkatu 7

00120 Helsinki

Finland

東京オフィス

〒151-0051

東京都渋谷区

千駄ヶ谷3丁目59-4

クエストコート原宿101

info.jp@artek.fi

FacebookのArtek Japanページ

@ArtekJapan

TwitterのArtek Japanアカウント

@ArtekJapan

本リーフレットに掲載されている商品は各販売店で購入可能です (入荷状況は店舗により異なります)。

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

<http://www.artek.fi/contacts/distribution/Japan>

アートディレクション: Something Fantastic

写真: Zara Pfeifer

商品写真: Artek

Image Credits References:

1-5. Atelier Bouroullec

6. Ola Rindal

7. Artek

8. Eino Mäkinen

9-10. Juha Nenonen

11. Artek

12. Juha Nenonen

13. Maarja Wirkkala

14-15. Artek

16. Marc Eggimann

17-18. Artek

19. Markus Jans

20. Artek

21. Marc Eggimann

22. Marcus Gaab

10/2015

アルテックは1935年、アルヴァ・アアルト、アイノ・アアルト、マイレ・グリクセン、ニルス＝グスタフ・ハールの4人の若者により「家具を販売するだけではなく、展示会や啓蒙活動によってモダニズム文化を促進すること」を目的に、ヘルシンキで設立されました。今日、アルテックのコレクションは、フィンランドの巨匠達によるデザインや、グローバルに活躍する建築家やデザイナーによる、家具、照明器具、アクセサリーから構成されており、彼らの独創的なビジョンや表現、テクノロジーの活用、簡潔なデザインは、アルテックのフィロソフィと強い親和性があります。創業より80年経った今、創業者達の精神を受け継ぎ、アルテックはデザイン、アート、建築の交点に立ち、未来への道を切り開き続けています。

**artek.fi**